

## アルコール関連問題の取組から広がった自殺予防の地域づくり ＝続けること・頑張りすぎないネットワーク＝

(実施期間)

平成 23 年～現在

(実施経費) 724,816 円

( 700,000 円)

(基金事業メニュー)

対面型相談支援・人材養成・普及啓発

(実施主体)

兵庫県宍粟市

### 【事業の背景・必要性・目的】

宍粟市は、兵庫県内でも自殺死亡率が高い状況にあるが、習慣的飲酒者の割合が全国平均よりも高いことや、住民意識として「酒を飲むことは人づきあいに欠かせない」と考えている人が多いことなど、アルコール問題がその背景にあると考えられる。

宍粟市では、平成 13 年に公立宍粟総合病院や龍野健康福祉事務所、自助グループ等が参画する「宍粟アルコールミーティング連絡会」を発足し、アルコール問題を地域の保健課題として、継続的に取り組んできたが、現在、アルコールとうつや自殺を関連づけた事業を展開することにより、地域の自殺者減少をめざしている。

### 【地域の特徴・自殺者数の動向】

地 勢：兵庫県西播磨圏域の山間部に位置し、平野は少ない。

産 業：林業、農業、材木業、素麺製造 等

交 通：鉄道はなく、中国自動車道と国道 29 号が交通の要

人 口：総人口 40,938 人 高齢化率 27.8% (平成 22 年度国勢調査)

自殺数：12 人／年 自殺死亡率は 28.9 (人口 10 万対) で兵庫県 22.4 を上回っている。(平成 21～23 年の平均 人口動態統計による)



### 【事業目標・事業内容】

アルコール・うつ・自殺を関連づけて事業を実施し、自殺やアルコール関連死亡を減少させ健康寿命を延伸することを目標として、以下の事業を実施している。

(1) 宍粟市アルコール関連問題連絡協議会の運営 (上記アルコールミーティング連絡会を改組)

(開催回数) 月 1 回

(参集範囲) 宍粟市・龍野健康福祉事務所・公立宍粟総合病院・姫路北病院  
西播断酒会・姫路断酒会

(協議内容) 講演、事例検討などテーマを設定し、実施体制や役割分担等を協議

(2) 相談事業の実施

相談区分	年間開催回数	相談実績
アルコール相談	12 回	39 人 (うちケース検討 31)
こころのケア (精神一般) 相談	5 回	8 人
親と子の心の相談	6 回	7 人

(3) 普及啓発事業の実施

①「こころの健康だより」の発行・配布 (市広報とあわせて全戸配布 年 1 回)

②アルコール講演会の開催 年 1 回

## (4) アルコール関連問題事例検討会の開催

(開催回数) 年1回

(参集範囲) 龍野健康福祉事務所・断酒会・宍粟市・介護支援専門員

(検討内容) 事例紹介・グループ討議・精神科院長による助言

## (5) 宍粟市・龍野健康事務所自殺対策連絡会の開催

(開催回数) 年3～4回

(参集範囲) 宍粟市及び龍野健康福祉事務所の保健師

(協議内容) 既遂事例(振り返り)検討、グリーフケア研修等の実施

## (6) 自殺対策に係る庁内連絡会議

(開催回数) 年1回

(庁内連絡会議の様子)

**【事業の工夫点】**

市内に精神科病院がなく、専門相談機関も少ない地域のため、庁内のどの課に精神保健福祉に関する相談があっても対応できるよう配慮している。

また、住民に対して相談窓口や定例相談日の周知を図り、ひとりで悩む人を減らせるよう取り組んでいる。

**【事業成果その他特筆すべき点】**

住民に対しては、①アルコールやうつ、自殺の知識の普及、②相談窓口を十分周知することによる相談することへの抵抗感の排除、③周囲が気づき、声をかけるといった共助の意識づけを進めることができた。

関係機関に対しては、①知識の普及、②役割意識の醸成、③個別相談への早期対応と円滑な連携など相談業務の質の向上、④行政や地域組織や住民が互いに助け合える地域づくりの意識づけが進んだ。

平成13年に発足した「宍粟アルコールミーティング連絡会」に参画した関係機関それぞれが、できる範囲で補い合う連携体制を維持し、一つの機関が頑張り過ぎないことで、アルコール問題への取組を10年以上継続できたと考える。

個々の事例について、その場限りの対応とせず、今後の生活を見通して家族や地域資源とともにずっと見守っていく姿勢を心がけている。今後も個別事例を大切にすることで市の総合的な相談体制の充実を図っていきたい。

(問合せ先) 兵庫県宍粟市健康福祉部 健康増進課  
TEL: 0790-62-1000  
E-mail: kenkozoshin-kk@city.shiso.lg.jp